三才雑録

九

1000
3
軟入

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

特1000
3

目録

一鎌倉執権記
一卿二品嘉定御菓子品
一平景清鎧之異記
一右牌
一日工集
一平島家傳
一七弦孟子考文補遺序
一曉明花記等持院記校釋
一大日本史引用書目

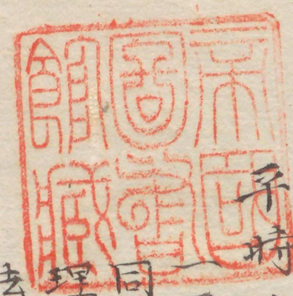
正徳二年校 仰出御書付
當用故実校釋
田楽法師由来
陪臣受領
禁裏工棟

杉木文庫
龜田文庫

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

鎌倉執權記

書法ハ御補任ノ如ク羊ト
註スト雖今略シテ記ス



治承四庚子
平時政
一男
号北條四郎
正治二四一任遠江守于時六十三
同日従五下十二月廿九日宣任熊野山修
理功
元久二乙丑
羊閏七廿五家羊二十八
法名明盛依実朝薨
女房奸之故也建保三正二死七十八
義時
元久二乙丑
相摸守時政二男
元文元三二仕
北條四郎太夫時家
法名明盛依実朝薨
女房奸之故也建保三正二死七十八
義時
相摸守時政二男
元文元三二仕

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

相模寺同日従五下
建保元二廿七 五五下同四 三従四下
同五 廿八右京権大
負志元八十二辞陸奥守
権大
出家同 時死二十二

兼久三 改羅始也
泰時 武蔵守従五上
義時一男 ノ十四上
八任修理亮建保四 廿八任北方 建暦元九
勝従五下七年 五五従上同廿二駿河守十一

十三武蔵守 元仁元十二廿七復任負承元
四十一 五五下嘉禎二 三四従四下同十二廿八
左京権大
十八従四上同四 辞武蔵守
権大 近志元九九正四下仁治三 五十九卒二十
家法名観 同二十五

同年二改羅
時房 相模守従五上 時政
二十四入洛任南方 元久二 廿八任主殿権
助四年式部亟九日従五下同日任遠江守
九廿一駿河守兼元四 十四武蔵守

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

同五十二十三相模寺二十八従四下嘉
十一五改元文广元
二二世修理権大夫同三
廿九辞相模寺同四十
七二四下延応二七十
廿四辛羊二十二

元仁元甲申
泰時二十七下向関東
時房二十九下向関東
時氏号武蔵太郎　泰時一男二月
入洛

時盛　掃部権助時房一男月日入洛
　往南方負応元八廿八任掃部
　権助

泰時　武蔵守
　十二十七任又譲補御後見
時房　相模守　奉御後見加冠判
安貞元丁亥
　時氏　修理亮母三浦義村女
　四廿修理権亮六廿二下向関東寛喜
　二二十八死廿八

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

寛喜二庚寅

童時　駿河守　義時三男　三十一三歳
　倉上治住北方第久二十二十五修
　理権佐負忘二四十駿河守同日従
　五下同三十七後任号極楽寺殿

喜禎二丙申

童時　十一廿二従五上
時盛　越後守七廿日越後守同日従五下

同三丁酉

童時　十一廿九迁相模守

暦仁元戊戌

童時　七廿三五下
時盛　八廿八三五下

仁治元庚子

時盛　三廿九下向関東仁治三五二於京都死八十一
　勝円建治三五二

仁治三

泰時　五十五出家法名観阿二十五死
　二十　二九廿家同十二死三〻
　号前司入道

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

経時　左近将監　時氏一男母城介景盛
女　嘉貞三二廿八左近将監同廿九
同叙留仁治二八十二従五上

寛元元癸卯
経時　武蔵守五下　二十二正五下
七八任武蔵守廿七
重時　相摸守従四下閏七廿従四下
同二六廿二従四上

寛元四丙午
経時　号中武蔵守蓮花寺殿四十九依
病出家法名安楽閏四一死廿三

時頼　時氏一男城介景盛女　喜貞四九一
任左兵衛尉寛元元閏七廿九左近将監
同日叙留同三二六従五上同四閏四一譲得
舎兄経時跡為御后見

宝治元丁未
重時　七三下向関東春御後見加判
長時　右近将監従五下重時二男
七月三鎌倉上洛任北方寛元三十
二九左近将監同日叙留

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

建長元己酉

時頼　相模守　従五上二十四相模守

童時　陸奥守従四上六十四任陸奥守

同二辛亥

時頼　相模守　二廿七ゟ五下造　国司賞

閑院

同四壬子

時頼　相模守

童時　陸奥守　十一廿四両人著座改叙三

康元元丙辰

時頼　相模守　十一廿三ゟ家法名通

崇　年三十弘長三癸一廿一戌刻死年

廿七同廿三日葬之　最明寺

童時　陸奥守従四上二十一ゟ家法名

観覚時五十九弘長元十一廿三死

六十四号極楽寺

政村　陸奥守　義時四男　建長八四五

任陸奥守同七月日為御后見加各

献御馬御劔如例

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

判同十四日著座改加列正嘉元十
廿三迁相模守文永元十二廿一從五上
同二三廿八任左京権太夫同三三二
四下同十五十八依病々家同廿七辛
六十九法名定業

長時　武蔵守從五下　三月廿四下向東
開七廿往武蔵守国務元左近將監十
廿二同廿四著座改加列歟但時宗年少之
間為被代官所加判歟也

時茂　重時三男号ムツ孫四郎時十六

二月入洛住北方

正嘉元丁巳

時茂　左近將監從五下　二月廿二日任
左近將監同日叙留

文永元甲子

長時　武蔵守從五上
法名專阿八廿一死三十一　七月三日出家

政村　相模守從四上
時宗　長時卒之後、

十二廿一從四上左

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

馬権以從五下時頼三男八十一以後令加
連判年十五才同五三五以後御後見
予法光寺殿
時茂 左近將監從五下相摸三郎
時輔 時頼一男十一九入洛往南方

文永二乙丑
時宗 相摸守從五上三廿八相摸守四五從
五上
政村 左京權太夫三廿八左京權太夫
元相摸守

文永三丙寅
政村 左京權太夫 四廿一式部丞卽從
五下

文永四丁卯
時茂 十廿三陸奥守
文永五戊辰
時宗 相摸守 三五始為執權 三廿九辭
左馬權頭
政村 左京權太夫 三五時宗出仕ノ間渡
時輔 式部太夫 四廿一式部丞卽從
五下

文永三丙寅
政村 左京權太夫三廿二三四下

文永四丁卯
時茂 十廿三陸奥守

文永五戊辰
時宗 相摸守 三五始為執權 三廿九辭
左馬權頭
政村 左京權太夫 三五時宗出仕ノ間渡

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

執權并連署

文永七庚午
時宗 相模守四十九著座政所
時茂 陸奥守三十七於京都死年三十

文永八辛未
義宗 左近將監長時一男 十一廿七三
鎌倉上洛住北方

文永九壬申
時輔 式部大丞 二十五於二波羅南方
被誅平

文永十癸酉
政村 左京權大夫五十八出家 法名覺宗
同廿七死六十九

義政 武藏守從五下 重時四男 元時景
号塩田入道殿文永七五廿駿河守同十
二十七加合判同七一迁武藏守同三月著
座政所

建治二丙子
義政 武藏守 二廿六被任毋 本ノマヽ

義宗 駿河守 十二四卒京下向関東

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

同三十七駿河守同八十七死二
十五

同三十五
義政 武蔵守従五下 四四出家 三十二五
廿八善光寺参詣 弘安四十一廿八於塩
田死四十
時国 左近将監従五下 十二月入洛住南
方十十二左近将監同日叙留 義政
二男
弘安元戊寅
時村 陸奥守従五下 改村三男 元時遠

去年十二廿三 鎌倉上洛四年 正十
入洛住北方二廿一 御沙汰始之 弘長二
三十九左近将監同日叙留

同四辛巳
時宗 三七三五下

同五壬午
時村 八廿三 武蔵守

同六癸未
業時 駿河守 三五下 二十四連判事被
仰出御使城介宗景 同廿五日評定

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

時始加冠判六廿八著座改可正元元
四十七彈正少弼同日叙留七廿七左
馬権以弘長二廿一復任又建治三五
十八越後守兼少弼弘安三十十四駿
河守兼少弼同六年七廿従五工九廿
二五五下

弘安七甲申
時宗 相模守 三廿八所労四四出家法
名道杲同日酉時 業時 八八陸奥守

時國 左近將監
二廿被召関東 不被入関東被殺常陸国八月
日出家 十ノ二被害

貞時 左馬権頭従五下
時宗一男母城介義景女七月以後加判
弘安元戊午 文永八十二十二誕生建治三十二二元
服七才弘安五二廿七左馬権以同日叙留
于西勝園寺殿 弘安三八廿二出家法
名崇演 正応元十廿二九

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

兼時　修理亮　宗頼一男　自播州上
洛往南方十二三入治
弘安八乙酉
負時　四十八相摸守
兼時　正九加加判秋
同十一月
負時　正五従五上
業時　二十八出家法名監忍　同廿二日死
宣時　前武蔵守正五下　元時　忠朝　直三

男朝直　時房子也　文永四六
廿三武蔵守　弘安八九廿五下八十九始
加判秋　八十九連判下
廿三加判秋三ゝ
時村　八十四下向関東　正慶二八七従五下
正応元戊子
兼時　越後守　月日任　盛房上洛之
時移北方
盛房　右近将監　二四三鎌倉上洛住
南方同廿八日任

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

同二己丑
負時　正五位下二十三従四下
宣時　二十三従四下
盛房　月日丹後守
永仁元癸巳
兼時　正九下向刕東郡上沿三七三京
都下向鎮西永仁三六又下向刕東
九十八死
久時　刑部少輔　義宗一男　三十三三
鎌倉四四京著住北方

永仁三乙未
久時　十二十九越後守
同五丁酉
久時　五十八下向刕東同廿九下著
盛房　五十七下向刕東　廿七下著七九
死
宗直　左近太夫將監従五下宗頼二男
二十三三鎌倉七六入沿住北方　先沿
何大友屋形
宗宣　前上野介宣時一男七十三鎌倉
同廿七入沿住南方　先沿何掃部介

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

貞童屋形

正安三辛巳

貞時　相模守　八廿二　未家法名業演

子最勝寺入道

師時　右馬権ノ介　時頼孫　宗政子也　八廿三

奉御後見　今日評定始　十廿五　政所始

馬劔三献如常

時村　武蔵守　改村長　男　八廿二　合判事

政所下今日評定始　十廿五　政所始

基時　左馬介　子普恩寺二七三鎌倉

業時孫　時兼子

乾元元壬寅

宗宣　正十七　未家　同廿八　下着

貞顕　中務大輔　七廿六　入洛　義時曾

孫顕時子　子金沢太夫殿

嘉元二甲辰

時範　左馬介　時房二男

同三乙巳

時村　左京権大夫　四廿三　夜被誅了

宗宣　陸奥守

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

同四丙午　十二廿四改元德治
同二　時範　備前守　八十八死廿八
延慶元戊申
負房　越前守　宣時二男　十一廿七三
鎌倉　同二十一廿八於六波羅死
同二己酉
負顕　越後守　五十七鎌倉下著
心長元辛亥
師時　相模守　九廿於御評定座頓死　季

業御免
負顕 武蔵守 七十一合判支被仰下
維負 陸奥守 宗宣 八月日上洛
正和五丙辰
高時 左馬権介 七十任執事
元応二庚申
時敦 越後守 五十四死 四十
元亨元辛酉
範貞 左近将監 時範 一男 十一廿二
三鎌倉

維負 陸奥守 七十三俄下向関東御
氣色不快ト問同五日上洛
正中元甲子 十二九改元
維負 陸奥守 八十七出家廿下著
負将 越後守 負顕 一男 十一月三鎌
倉 十二日入洛南方

嘉暦元丙寅
高時 相模守 二十三依病出家法名宗
益 号日輪寺
負顕 修理権大夫 四廿六出家法名業顕

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

守時　相模守　久時一男　四廿四奉御
後見評定始　手赤橋殿
同二十卯
雖時　修理太夫　四廿四加判　支九七死　年四十二
元徳二庚午
茂時　左馬権助　燃時一男七九加判　支被
御下評定始
仲時　基時一男　十二月日鎌倉
時益　左近将監　時　子七十一三鎌倉
南方

天正本太平記二月五日両人上洛
元弘三癸酉
守時　相模守　五十八於山内自害
茂時　左馬権助　五廿二於殿中自害
仲時　越後守　五八於馬場自害
時益　左近将監　五七落之候羅云〻
頼朝　建久三七十二為征夷大将軍正治元正
十一依病出家同十三薨　年五十二

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

改子 建保二四十四叙三位同十一十三従二但不蒙
将軍宣旨頼経羊少納言為代官所成敗也
負忠二二十五新補地頭得分十一町則一下段
別加徴五升之由被下宣旨云々
嘉禄二五廿九受病七十一卒二十九
右執権記鎌倉鶴岡僧最勝院可秘蔵也
愁望借取書写焉者如件寛文壬子冬十
二月日

元徳二年申四月十七日被御出
東山道（トウセントウ）　山陰道（センオン）
山陽道（センヨウ）

行レモ山ノ字ヲセンヤトヨミ東山道ノ内ノ中筋
ノ道ニ仍度古来ヨリ中山道トヤ仍海道ト
ヤ率ハ東海道南海道西海道オツレモ海
国ノ道筋ヲヤ仍海ナキ国トヤ傳ル仍ハ下野国
甲斐国此道ニ海道ハヤ率有ヘキニアラス仍
日光道中甲州道中右ノ通ニテ可然ヤ

東都御嘉定御菓子

のしもみ　十五
ようかん　三
うつろぎ　五

三十
五
十二

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

錫紵（セキチョ）　天子山車ノ時祝著御装束也

御引直ウスふツミ色無文

按ニブ色又ウスミ色

御袴　同生絹裏子色萱中色也

御冠　紬纓

甲州山梨郡小屋敷村

妙心寺領

鎌徳山恵林寺

寺領二十九石五斗　紫衣

武田信玄菩提所也

田野景徳院　勝頼以下四十三人ノ位牌アリ寺産二十石

ムトケスキ

土用三入日ノ朝未ノ日ノ出サル時ノサホノ葉ヲ取カケホシニスル黒ヤキ粉ニノ用

ムコウヒ

南天ノ実黒焼

當用故実雑録十冊

多田兵部倫泰著

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

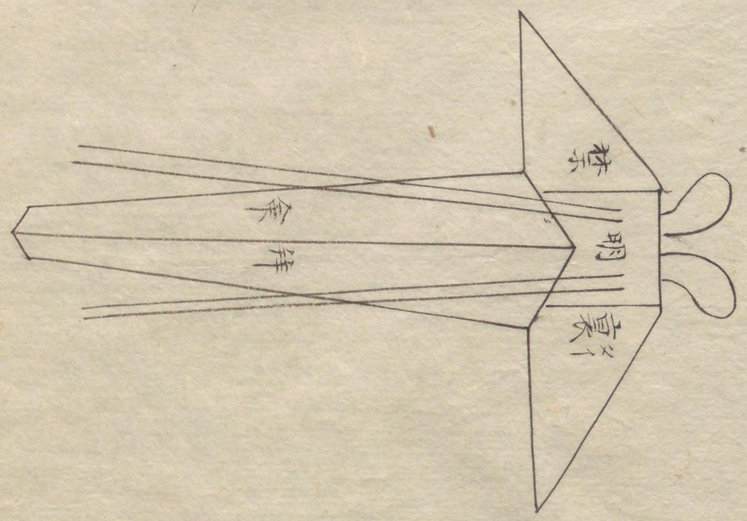
一日幸の扇昔より招扇と
いり陰武お陰よりありあり扇
まり長サ曲尺二寸一尺
名短あり扇の扇之
中おぐよい情を不知
一足利の比までい武士いかサカと
お刺よ持をて行まず
刀と帯をおサカいなの扇を帯
せり小扇のて見ると町人のカ仏法
扇よおりく武士も脱
一拝領い自ら名得し作目見い
扇

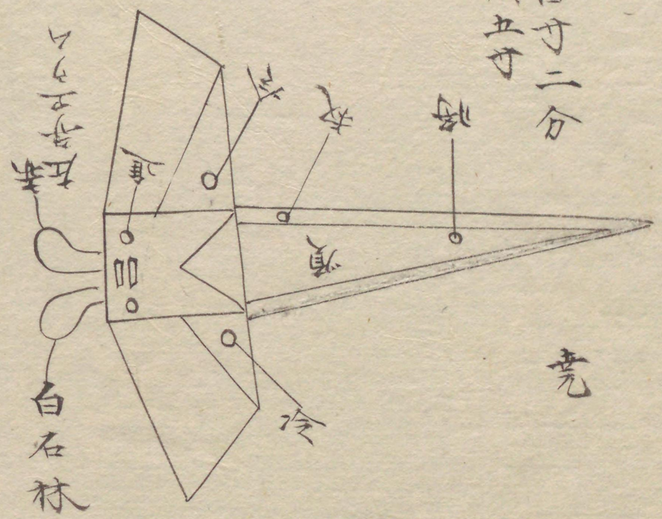
一献上いかり進ずい事
遠より
一正代下ニい弓高ハ和歌
ふりと云のも日
一和歌ニ雷花を倚る事
四方拝ます有ら
一おきものむしの品の事
一市和歌和よ此品形を以
よきまそよ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

裏方





竪四寸二分
横五寸

煮

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

一神馬ハ悉ク黒ク白キ斑毛ナシ用聖武天平
三年十二月乙丑ノ文ヨリ見ル
称スルコト是レ一條院勅シテ
一騎馬ヲ以テ賀茂社ヘ献
一賀茂ノ式ヘ古内裏ノ時ノ寛門ヲ用ル事ナリ其間
ノ名ハ式ニ載ラズ普門ヨリ陽門ヲ對ス
一徳自ト云事天子仙洞ニ
ヨト上ヨリ又下ヘ如此事ハ
年中ノ仏神事ヲ先ヘ幸徳井陰陽寮ヘ
義朝臣ノ元服ノ書ヲ写テ
手家相伝ナレドモ裏自ノ事有
ヤ慶ニ黒ヲトアルハ
一姓氏ノ事
平姓氏藤ヲ著シテ後、此書ヲ見ルニ平カ考
ト多田生カ説ト符合セリ今予カ考残セシ
事ヲ書ス
一姓ハ天子ヨリ賜ル所元来天子ノ御子臣トナラセ
玉ノ時其御母ノ筋目貴賤ニヨリテ上中下アリ
姓ノ字ハ女篇ニ従フ母方ニヨリテノ故ニ嬪后ノ産
玉ヒタル御子妃嬪ノ生玉フ御子ニヨリテ遠目
アリ姓ノ和訓カハネハ皮骨ノ二字ニ
此姓ヲ孫ノ皮骨ニ傳リ先祖ノ善悪ヲ知ルニ
後ハ臣下ニモ賜ルナリ成タリ天武ノ御世マテハ
セキラハニキナアリシ故ハ等ニ定玉フ次第ヲ云

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

王ヘリ
天子ノ御子孫外ノ姓ヲ賜ハルヿ給ハシキニヨリ
嵯峨帝ヨリ後ハ天子ノ御子孫ノ分ハ何世
ニテモ氏ハ源姓ハ朝臣ト賜ルヿニ成今ニ至迄其
通リ故サカ源氏清和源氏村上源氏宇多
源氏ナト、其出ル所ノ天子ノ号ヲ呼出シ
テ分ツ之近クハ後陽成ノ皇子八條宮二代
目ヨリ臣下ノ部ニ成王ト云ヒ源朝臣ノ姓ヲ賜リ
是ヲ後陽成源氏トモ今ノ唐橋ヿ源朝臣
トイヘハ源ハ氏ヿ朝臣ハ姓ヿサカ天皇ヨリ始
ル故系図キニモ始テ源朝臣ノ姓ヲ賜フト
アリ此故実ヲ不知注墓ニ始テ源朝臣姓
ヲ王フナト書ヿト誤ヿ
賀茂ハ氏縣主ハ姓度會荒木田ハ氏ニテ
神主ハ姓此神主ハ職名ニ非ス姓ヿ若科ア
リテ流罪セラルヽ程ニモ未及時ハ姓ヲ落
サルヽトヽ云テ是セテ朝臣ト書ニヲ忘ストヲ
トサル宿称トカキニヲ稲置トヲトサルヽ
類ヿ姓ヲヨトサルヽハ家カラアニクナル故
恥テ皮骨ニ傳フトモ皮骨ハ姓ノヿニテ
子孫マテ家カラアニクノ恥ニアラス義ヿ此姓トニハ
一階ニテモ位階ヲ王ハリタル時名ノル者ニテ
朝臣ニ賜ラサル者ハ氏ヲ用ユ故ニ日本書

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

紀以下ノ国史ニ賜姓原朝臣氏ナトアリ氏ハ
原姓ハ朝臣トモ美ヲ省キ原藤ナトモ
姓トモ心得伊藤カ藤ノ称号ヲ氏ト思フ者
多シ此姓ノ下ヘ得ル者カシ国史記録
ノ肯テ知ルヘシ
一氏モ其出所ニヨリテ上下アリ先祖ノ出ル
処ニ依テ貴賤ヲ分ツ故ニ氏ヲ古ハ出自
トモ云何ノ姓ヨリ出ルトモ云義之今筋目ノヨ
ニアシトモ云モスイシメノ善悪トモ云義之元来
氏トモ字ト出ノ字ト同事之出ノ字自出ル
時ハ出ルノ声ニテ入声之見テ出スト云時ハ

支脂ノ勾ノ仄字ニテスイノ音之出師トモモ
軍ヲ出サニト議ノ義之故ニ支脂ノ勾ニテハ
氏トモ字ト出ノ字ト同字ナレ共ニスレハ出ノ
字横ニスレハ氏ノ字ニナル姓ハシヒヨリテ多ク出来
成テモ其氏ノ貴賤ヲ下ニ書姓ニテ上中下
ヲソリ分テシサン為天武ノ時姓ヲ八等ニ分
チ玉ヒシ今ノ松平織田ナトモノハ称号ト
云者ニテ氏ニテモ姓ニテモナシ近衛一條ナトモ
称号ニテモ知ヘシ近衛氏一條氏ト書タル
モノ曽テナシ此氏姓称号学者トイハル
ル人モ混シテ誤ル事多シ

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

位署書ヲ能見テ知ヘシ

一姓朝臣ハ原朝臣ト云

一氏朝臣ハ原光孝朝

一古法ノ系図ハ紙ノ裏ニ書紙ノ肌ヨキ方ハ枚ヘ張付タル方ニテ日ニ當ルト方表ナリ倫音ナトモ裏ノ方ニ書故実ニ

一表紙ハ美濃ノ大宜一能打テ用

一裏帛ハ行ニテモ心次第ニ

一軸ハ三位以上ハ水晶ナト用四位以下紫檀無官ハ黒柿ナト何一ニテモ可ニ家紋ヲカク大サワタリ一寸巻物ノホロ一ハヒニ成ヤウニ

スヘシ軸ヲ紙ヨリ出スヤウニスヘシ

一巻物ハ寸法一尺二寸上ヘ出ス時ニ自分可持スルハ八寸懐中ナトスルハ四寸

一標紙ハ絹ノ類ヲカクルニ官位次第段ニ有ヘシ級モ同シ

一軸留ハ紙ト油トハナシテ置ニ績スモノニ績テハ子孫是ヲテニテ斬絶スルトテ忌ニ

翔旦冬至部類記 一冊 元木元服記 一冊
令私抄 壹冊 天文記 二冊
道顕抄 二冊 和歌記聞 貝桑 一冊

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

細川頼之記　一冊
三王外記　一冊
讀史余論　白石　三冊
古史通　白石
細川大心院記　一冊
朝野雑記　東海　五冊
日工集　一冊
常楽記

尾張国海東郡馬島村明眼院ニ白山神社ア

貞享御立城記　一冊
東迁基業　三十
蕃鑑譜　白石
熱田縁起　一冊
愚童訓イ本　二冊
釈家官班記　二冊
鎌倉大日記　一冊
鳩葦雑事記　一冊

リ社内ニ古代ノ鎧アリ相傳テ平家ノ侍大将悪七兵衛景清カ鎧ニテ則景清奉納セリトイヘリ数百年ヲ経テ悪皆破損セリ寛ニ加藤トイヘル人甲冑再興アリ天正元亀ノ比世間ニ尾張其近ト称セラレテ甲冑ハ彼カ家制也代々尾ニ住テ国守ノ著背長ヲ制ス彼或時明眼院ニ詣テ彼鎧ヲ観シ志ヲ起シテ自ラ修整ス因テ二通ノ書ヲ添テ奉納ス

拝改鎧之記

白山社ニ納有之甲冑ハ上代ノ鎧也累年悉破損ニテ其具皆不足之今集残具改而

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

奉造鎧之取者也

鎧不足之具

一押付札不足集テ假ニ作ル

一綿囉ハ不見假ニ作ル

一草摺不足集テ作ル

一神上ノ板斗残テ下ノ板背不足

一籠手板金ヲ残テ外ハ不見

以上

宝永五戊子二月吉日

尾陽武用師

加藤彦三郎

正寛判

一栴檀ノ板

一胸ノ金具

一弓向ノ金具

一草摺ノ内一双

一籠手ノ板金ヲ

以上

宝永五戊子二月吉日

尾陽武用師

加藤彦三郎

正寛判

一小手輪

一前ノ皮不残

一脇楯

一袖冠ノ板

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

田楽法師由来之事

小川新右衛門殿代官所泉郡大
津村ニ有之小田平法師訳人

藤田松阿弥
藤田清阿弥

右訳人ニ者先祖ゟ世有之候仕ル雑古
い事ニ候ニ付十二人新ニ定十二人ニ
減シ村ニ禁令訳十二人ニ村政ニ預リ候ル時
ハ業微仕候ル故雑敷ル事ハ代い何ニ
ト年一切お示ル事ハ古閑重書ニ候ル故ニ世

大坂市場ニ有之候ル如田楽雑敷ル事
ニ候ニ大津村ニ有之候ル事ハ古閑重書ニ
有之候ル通ニ候ル故ニ有之候ル事
事ハ代い何ニ候ル故ニ古閑重書ニ
入様ニ有之候ル事ハ古閑重書ニ候ル
而ハ業ニ有之候ル事ハ古閑重書ニ候ル
古閑重書ニ候ル故ニ有之候ル事ハ
古閑重書ニ候ル故ニ有之候ル事ハ
古閑重書ニ候ル故ニ有之候ル事ハ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

家名
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一當時現金仕切ニ而仕入致候時
ニ者一割ニ而ハ不申候得共
引角ニ而ハ不申候ニ付
右ニ書附ニ而ハ不申候ニ付
又仕入ニ参上仕候ニ付
ニ而ハ不申候ニ付
一春日ニ而ハ参上仕候ニ付
立ニ而ハ不申候ニ付
右ニ書面ニ参上仕候ニ付
私ニ雇ニ而ハ不申候ニ付
一ニ而ハ不申候ニ付
右ニ書面ニ参上仕候ニ付
一ニ而ハ不申候ニ付
中ニ而ハ不申候ニ付
一ニ而ハ不申候ニ付
右ニ書面ニ参上仕候ニ付
一ニ而ハ不申候ニ付

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

用仕請荒等ヲ被
くる旨ハ勿論ニ候ヘ共
乍ニ

二月二日　田楽法師二人
参ル　村方ニ泊ル事
ヲ不知一番ニ覚
泉州泉郡大津村
同
東ノ田川通　富町西ノ町
泉屋二郎

紀州伊都郡入江村
坂本清林
同　林西
同　西林

一先ツ村方ニ泊ル事ニ
シテ田楽ハ不来ル事
ヲ不知一番ニ覚
ル事ニ二人共ニ頭巾
ヲ着シ一人ハ笛ヲ吹
一人ハ一尺二寸ノ
一ツ所ヲ敲ク事ヲ

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

一田楽能ニ而候ハヽ可被仕候事
十番も可被仕候ハヽ十五番ニ而
吹事ハ可為御次第候事
一十七八番ニ而ハ御能ニ
ハ無之候ハヽ
一ワキ方ハ
一ワキ能ニ而
一狂言ハ
一能ニ而
一狂言ハ
一能ニ而
一狂言ハ
一

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

一笛竹寸法事
右尺サ一尺二寸元七ヶ不五こゝハ勢ゟ墨塗
ゟ之ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
一小鼓ゟ事
右ハ手まゝし鳴ゟしおゟ鼓ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
小打ゟやゟしの事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
カツコい事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
一ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
鞨鼓ノ所作一ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
カツコい事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事
ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事

ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事ゟ而ゟ事

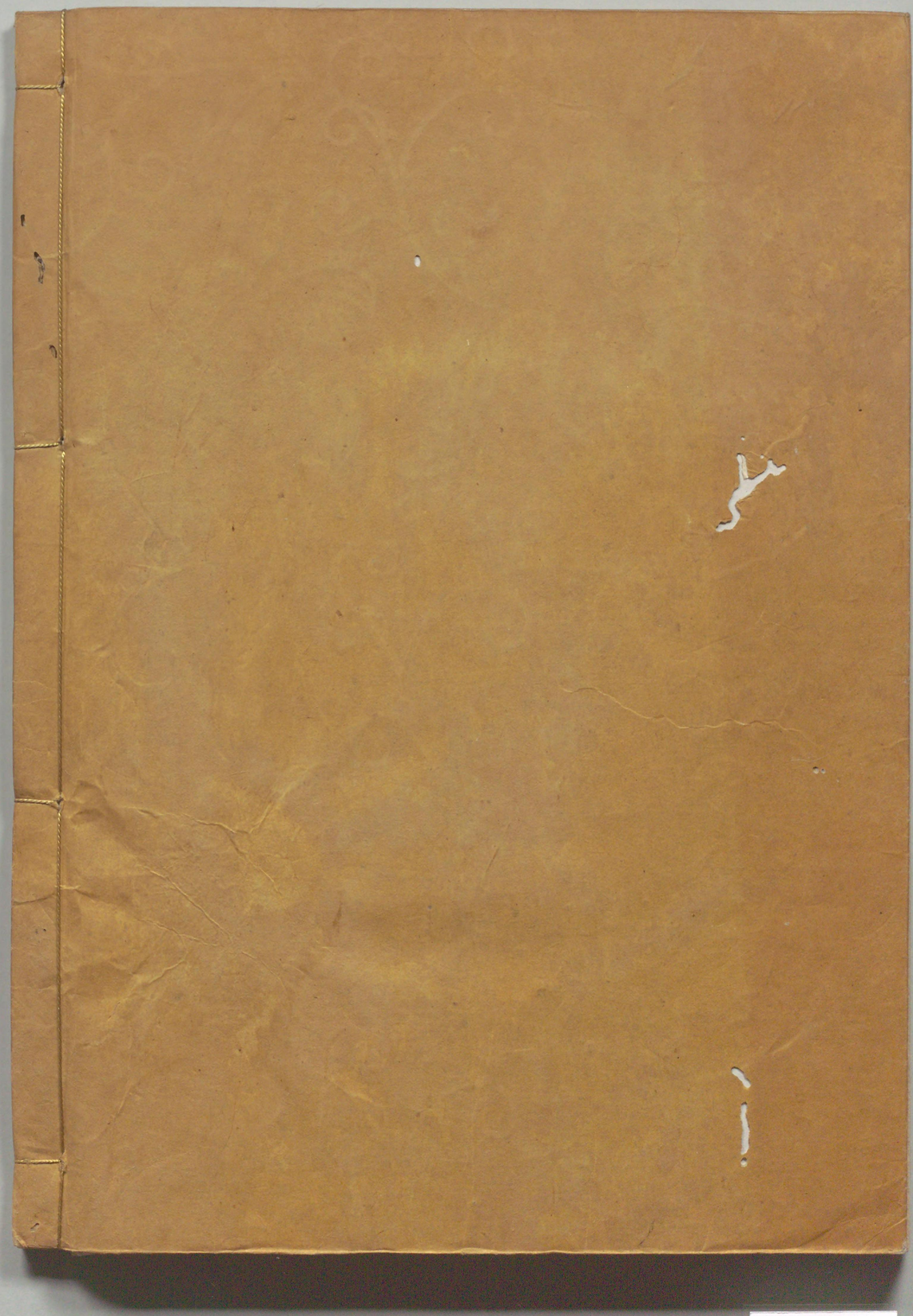
1000
3

一本在新潟県
若人教育樂器通員未
於二人一層二層三層
ら本又新潟在ら一層三層と下年
ら牙ニ行義お事中小
来方校堺ノ中ニ房数
中小ら
ら通限ら学繋仕
通一手有之中小
同

久留院

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用



国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用